

上田市文化財調査報告書第65号

市内遺跡VI

平成8年度市内遺跡発掘調査報告書

1997.3

上　　田　　市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第65号

市内遺跡VI

平成8年度市内遺跡発掘調査報告書

1997.3

上　　田　　市

上田市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、長野県上田市における、各種開発事業計画に伴う、平成8年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業、県費補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局社会教育課）が実施した。
- 3 調査は、平成8年5月2日から平成9年3月25日まで隨時実施した。なお、平成9年3月現地調査実施分については、次年度の報告書の中で報告することとした。
- 4 現地調査には事務局職員があたり、各調査ごとにその職氏名を記した。実測・写真撮影等は、担当職員が行っている。
- 5 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの貸貸借・運転については、調査員の指示により、和農興　竹内和好が行った。
- 6 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 7 本書の編集・発行は、事務局が行った。
- 8 本調査にあたり、開発施工主、担当課所、担当職員に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。
- 9 本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。（職名）
（教育長）内藤　尚、（教育次長）荒井鉄雄、（社会教育課長）松沢征太郎、（文化係長）岡田洋一、（文化係職員）中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田敦子、久保田浩、西沢和浩、清水　彰、小笠原正

目　　次

(1) 調査の目的	… 1
(2) 金鉢遺跡	… 4
(3) 金井裏遺跡	… 6
(4) 西之手遺跡	… 8
(5) 染屋台条里水田跡	… 11
(6) 内堀遺跡（居館址）	… 14
(7) 八幡裏遺跡	… 17
(8) 八幡裏遺跡	… 20
(9) 築地遺跡	… 23
(10) 上沖遺跡	… 26

(1) 調査の目的

上田市は、長野県の東部、通称「東信地区」に所在する。市域のほぼ中央を東西に千曲川が流れ、北に太郎山塊、南に独鈷山塊、東に鳥帽子山塊、西に飯綱山塊と四方を山々に囲まれた地域である。歴史的にみると、古代には創置の信濃国府・信濃国分寺が、中世には信濃守護所が、近世には上田城と、常に長野県史の表舞台に立ち続けたところである。

一方、地下に残る埋蔵文化財についても、昭和46~48年にかけての分布調査により、430件余りの遺跡が登録された。ところが、この調査は、遺物の表面採集や聞き込みによるものであったため、遺跡の範囲や保存状況が正確さに欠け、発掘調査着手後に調査の計画変更を余儀なくされる事態が数多く生じ、文化財保護部局のみならず、開発主体者にも多大な迷惑をかけるケースがしばしばであった。

1998年長野冬季オリンピックの決定、市域再開発に伴う各種の官・民の開発計画が目白押しの状態となっている現在、上田市教育委員会ではこれらの開発に伴う遺跡の保護措置を講ずるため、平成3年度以来、国庫補助事業として、「市内遺跡発掘調査」を実施しており、本年はその第6年次目となる。

本年度は、公共開発事業に伴うものとして、県道の建設に伴う「金鉢遺跡」、市営住宅建設に伴う「内堀居館址」、国立新病院建設及び市道拡幅に伴う「八幡裏遺跡」、ほ場整備事業に伴なう「築地遺跡」、産業団地造成に伴う「上沖遺跡」を行い、このうち、金鉢遺跡、八幡裏遺跡では、遺跡の確認により、別途発掘調査を実施した。築地遺跡においても遺跡が確認され、今後の保護措置の必要が生じている。一方、民間開発事業としては、ハウジングセンター建設にともなう「金井裏遺跡」、同じくハウジングセンター建設及び遊技場建設に伴う「染屋台条里水田跡遺跡」、スーパー移転建設に伴う「西の手遺跡」の試掘調査を行い、このうち、金井裏遺跡、西の手遺跡においては、遺跡の確認により、別途発掘調査を実施し、あるいは実施中である。上田インターの開設に伴い、周辺の染屋台を中心とした開発事業は、今後も増えそうである。

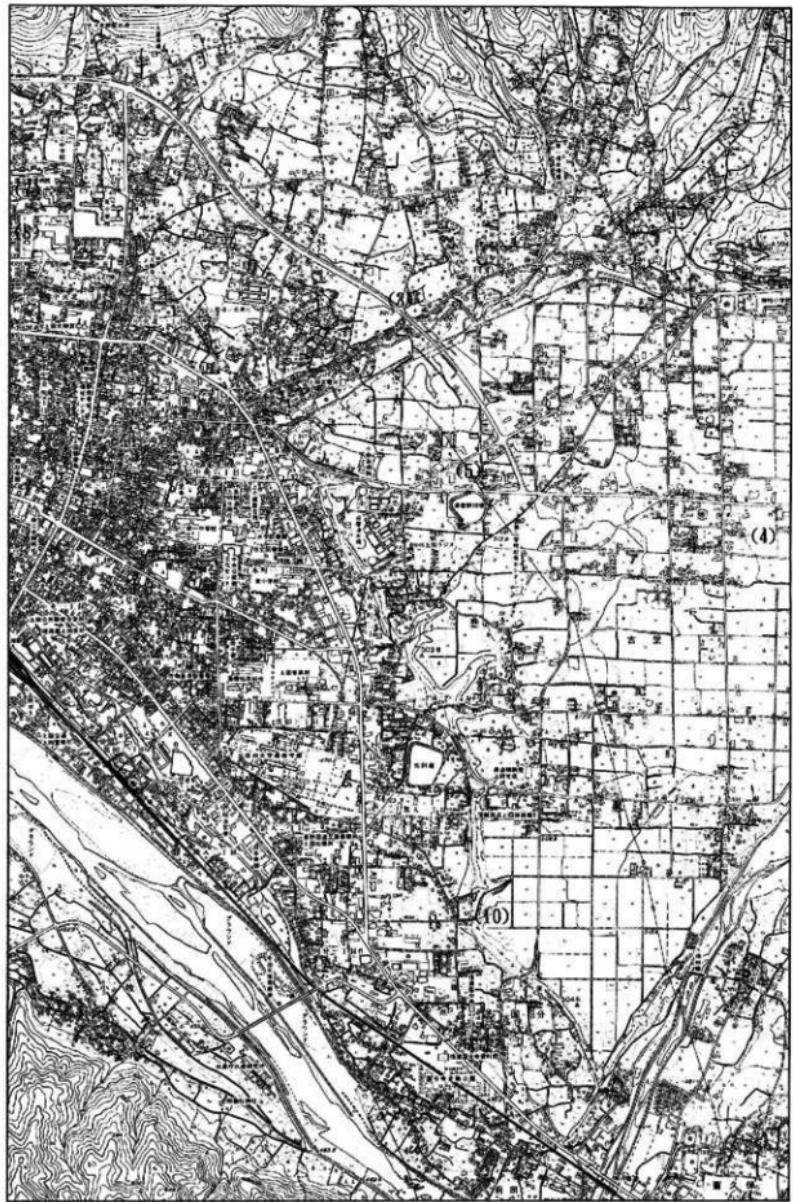
開発の情報は、公営のものについては上田市の担当部局や、長野県教育委員会事務局が照会したものから、民間のものについては上田市開発審査の合議により得た。そして、社会教育課職員が現地踏査を行い、調査の要があると判断されたものについて試掘調査を行った。

調査は、開発計画区域内にバックホーによりトレンチを入れ、その土層や遺構検出面。出土遺物の有無を確認し、これと地形のあり方を考えあわせ、開発区域内における遺跡の範囲を示すこととした。なお、事業地が未買収の場合、事前の現地踏査により開発計画図にトレンチを入れる箇所を示し、現所有者の同意を開発主体者（主管課）に得てもらい、調査を実施した。

遺跡の保護措置を講ずる保護協議をすすめるうえで、開発側・保護側双方にとって最大の関心は、該当遺跡の範囲であり、この基礎資料となるものが今回の調査結果である。限られた範囲と予算、人員・期間の中での調査であるため、やや不十分な面があるのは否めない。しかし、この調査がその後の遺跡の行く末を決めてしまう面が大きいため、調査の精度のさらなる向上が必要となってきた。



第1図 平成8年度市内遺跡発掘調査試掘調査地点図（1）
() 内の数字は、本報告書の報告番号を示す



第2図 平成8年度市内遺跡発掘調査試掘調査地点図（2）
（ ）内の数字は、本報告書の報告番号を示す

(2) 金鉢遺跡

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 調査地 | 上田市大字本郷字金鉢 |
| 2 原因 | 県道上田丸子線建設工事 |
| 3 調査日 | 平成8年5月2日 |
| 4 調査方法 | 幅1mのトレンチ2本(長さは任意) |
| 5 調査担当者 | 西沢和浩・清水彰 |

遺跡の位置と経過

金鉢遺跡は、上田市街地の南部、本郷地区に位置する。『上田市の原始・古代文化』(1977上田市教育委員会)では、下川原・下窪・金鉢遺跡として記述され、「下本郷集落の北端から南北およそ300m、道路の東方約100mの範囲に下川原、西方約200mの範囲に北方の下窪、南方の金鉢の3遺跡がある。西方の2遺跡は、圃場整備で全壊状態である。いずれも後期の土師・須恵器を出土し、一連の遺跡と考えられる。」とある。

平成7年冬、上田建設事務所から県道上田丸子線を建設したいとの申し出があり、用地買収の完了部分から試掘調査を実施することとなった。この調査では奈良・平安時代の遺跡が確認されている。(『市内遺跡V』1996年上田市教育委員会)

今回の調査地点は、前述の地点の東側に隣接し、遺跡が広がる可能性があったため、用地買収の終了を受けて試掘調査を実施した。

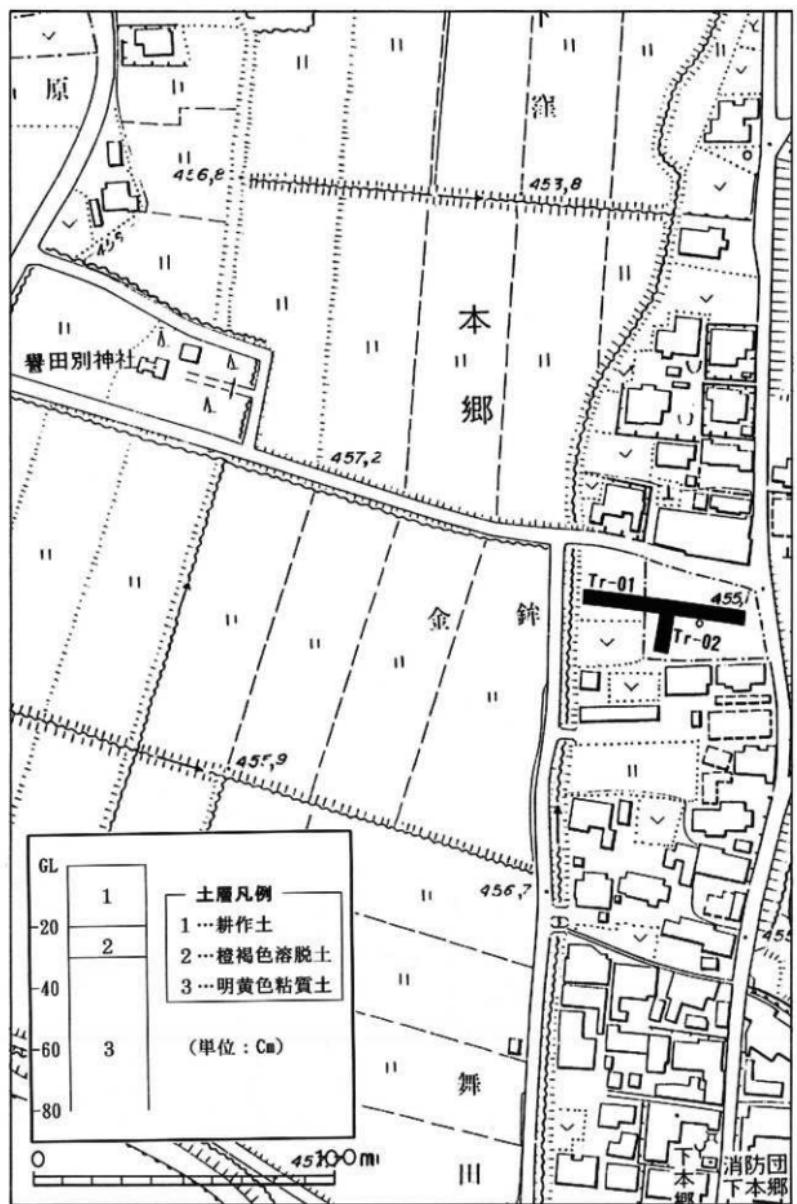
調査の結果

調査は、事業地内に2本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

その結果、いずれのトレンチでも遺構・遺物はまったく検出されず、遺跡は今回の調査地点にはひろがっていないことが確認され、金鉢遺跡の東端は、昨年試掘調査した範囲に収まることが確認できた。

この後、建設事務所と遺跡の保護協議を実施し、平成8年11月、稲の刈り入れの済んだところで発掘調査を実施し、掘立柱建物址6件を含むピット群・土壌・溝址を確認した。





第3図 金鉢遺跡試掘調査トレンチ配置及び標準土層図

(3) 金井裏遺跡

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 調査地 | 上田市大字上田字蛇沢 |
| 2 原因 | エスピーシーハウジングセンター建設 |
| 3 調査日 | 平成8年5月7日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを9本入れる |
| 5 調査担当者 | 中沢徳士、久保田浩 |

遺跡の位置と経過

金井裏遺跡は、上田市の北東、太郎山麓の黄金沢扇状地の末端にあたる。地形は全体に南に傾斜し、遺跡のすぐ東には沢筋があったと思われ、深く抉られている。ここには現在、市道が通っている。本遺跡は1985年、上田バイパスの建設に伴い発掘調査しており、弥生時代後期と古墳時代初頭の住居址2件を検出している。

今回、エスピーシーハウジングセンターの建設について開発事業申請された当地籍は、この85年の調査地区のすぐ北に隣接するところであり、遺跡が広がっていることが十分に予想された。4月5日、開発事業に係る現地説明会でこの旨事業主に伝え、ぶどう棚等の撤去を待って5月7日、範囲確認のための試掘調査を実施した。

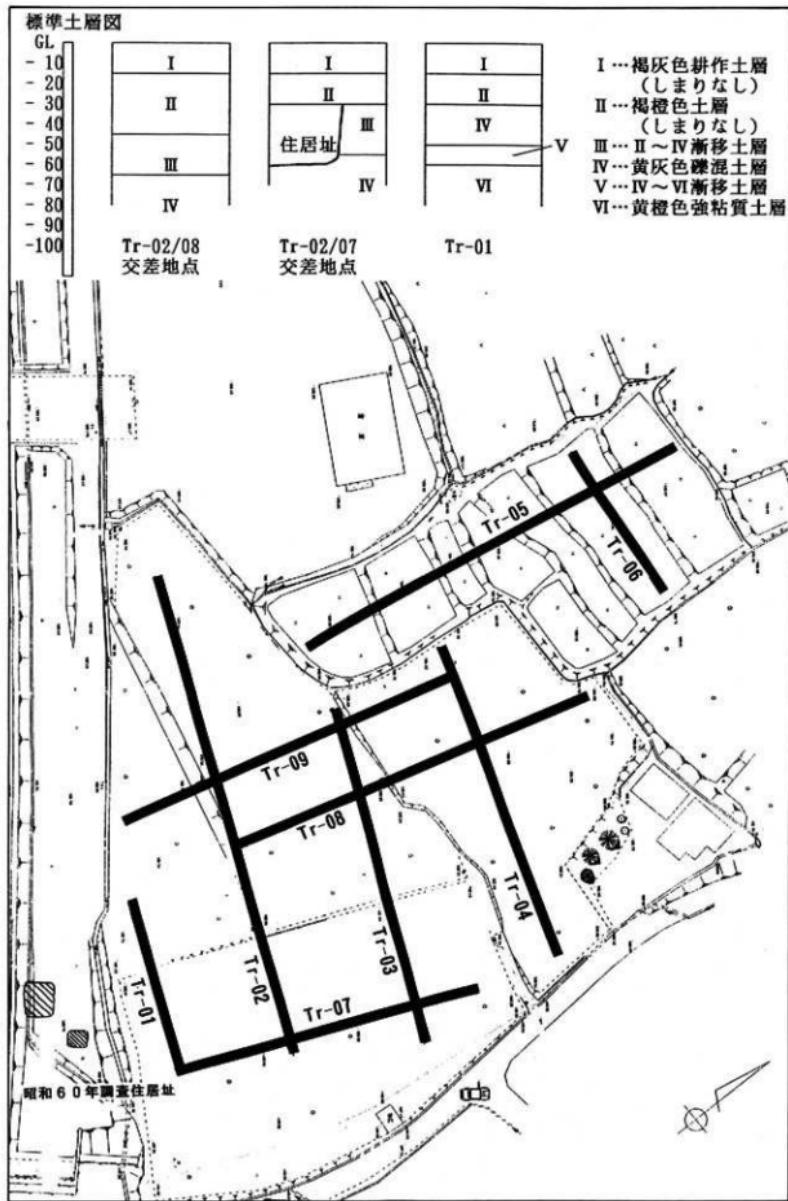
調査の結果

調査は、施工区に9本のトレンチを設定し、バックホーにより掘削、土層断面、遺構検出面を精査した。その結果、Tr-01・02において住居址のプランを確認し、Tr-07・08からは弥生時代後期の住居址のプランを確認した。昭和60年の調査結果と、本調査結果を合わせて考えると、当施工に係る遺跡の面積は約3,000m²に及ぶものと考えられた。

この後、事業主と遺跡の保護協議を、5月14日、5月30日の両日にわたって開催し、駐車場部分については砂利敷、歩

道部分についてはインターロッキング施工により現状保存とし、造成のため大幅な盛り土と、建物建設敷についての1,800m²について、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。





第4図 金井裏遺跡試掘調査トレント配置及び標準土層図

(4) 西之手遺跡

- | | |
|---------|------------------|
| 1 調査地 | 上田市大字古里字西之手 |
| 2 原因 | スーパーマーケット建設 |
| 3 調査日 | 平成8年5月8日、10日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを15本入れる |
| 5 調査担当者 | 久保田敦子、久保田浩 |

遺跡の位置と経過

西之手遺跡は、上田市の北東、染屋台といわれる千曲川と神川によって形成された大段丘のほぼ中央に位置する。この地は、故一志茂樹博士の研究成果に基づき、1982年から87年まで上田市が実施した「創置の信濃國府跡推定地確認調査」事業で、東之手地籍とともに、国府跡と推定・調査した地域である。その第1次調査では、古墳～平安時代前期の溝址や住居址と遺物が豊富に出土し、また、第5次調査E地点では、古墳時代後期に比定される掘立柱建物址が検出されている。しかし、直接国府に結びつく遺構・遺物は見られず、確認調査はいったん中断していた。

今回、この西之手地籍の前述の調査の第5次調査E地点を含む地域で、㈱やおふくがスーパー・マーケットを建設するにあたり、遺跡の範囲確認のため、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査は、施工区に15本のトレンチを設定し、バックホーにより掘削、土層断面、遺構検出面を精査した。

土層は、耕作土とその直下に形成される灰橙色溶脱層20～30cmを剥ぐと、地山の黄橙色の粘質土があらわれる。その地山上で、Tr-01, 02, 04, 06, 07, 11, 12からは、掘立柱建物址の一部と思われる柱穴が確認されたほか、Tr-04, 07, 12, 14からは溝状遺構が確認され、そこからは古墳時代の土師器・須恵器片が出

土した。また、Tr-02, 04,

12, 14からは平安時代

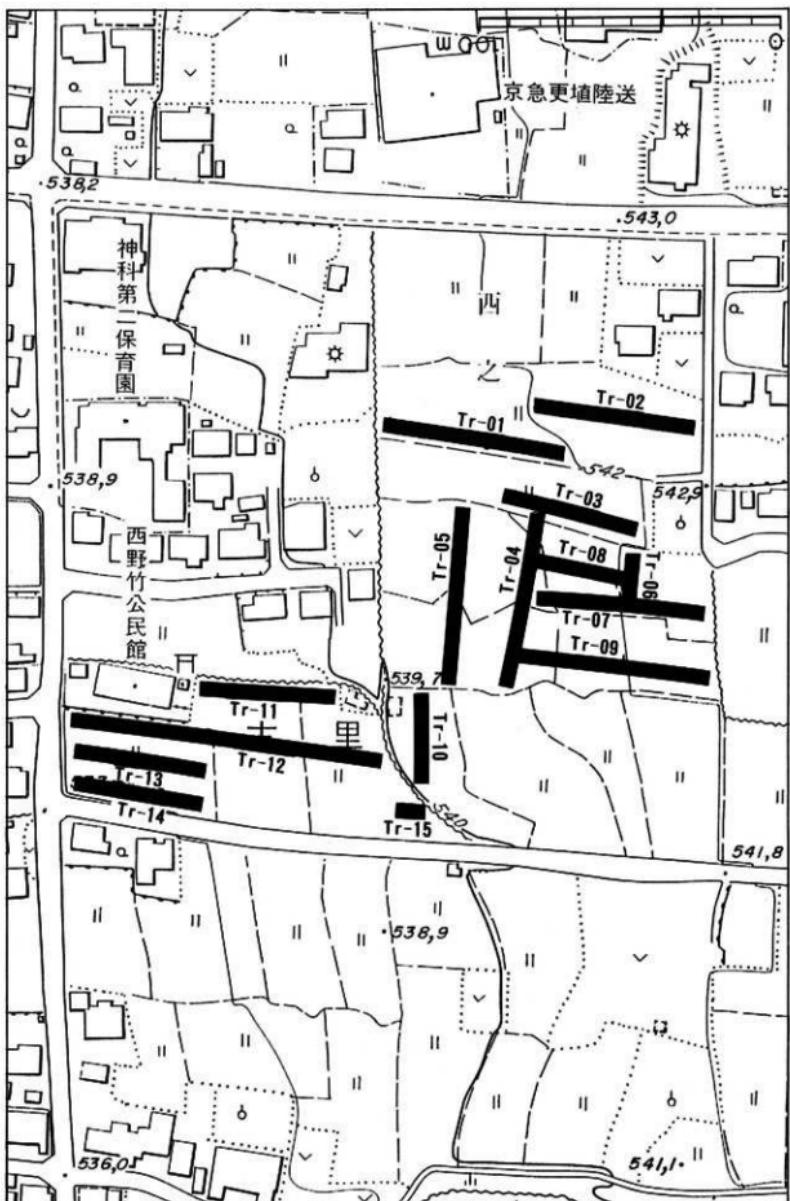
の土師器片、須恵器片、

灰釉陶器片が出土した。

これらのことから、西之手遺跡は調査対象区全体にわたって分布していることが確認された。

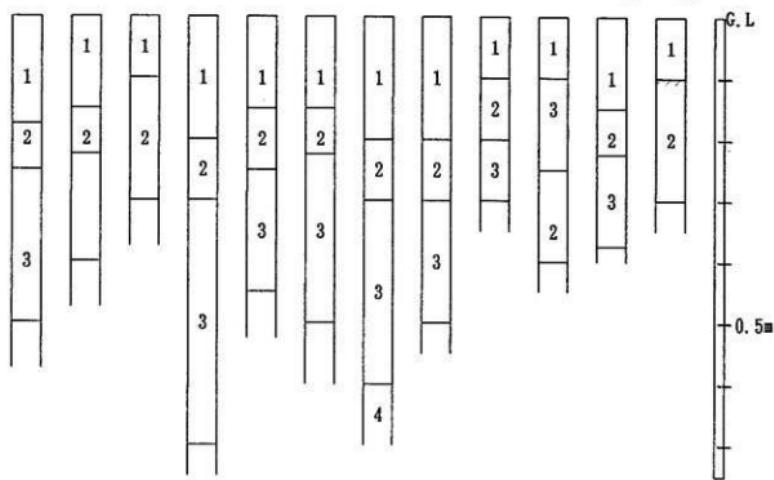
この後、開発主体者と遺跡の保護協議を行い、H 8～9にかけて記録保存のための発掘調査を実施することとなった。





第5図 西之手遺跡試掘調査トレンチ配置図

Tr-01 Tr-02 Tr-03 Tr-04 Tr-05 Tr-06 Tr-07 Tr-08 Tr-09 Tr-10 Tr-11 Tr-12



Tr-13 Tr-14 Tr-15



第6図 西之手遺跡試掘調査標準土層図

(5) 染屋台条里水田跡

- 1 調査地 上田市大字住吉字福田
- 2 原因 上田ハウジングセンター建設
- 3 調査日 平成8年6月3日～4日
- 4 調査方法 幅約1mのトレンチを3本入れる
- 5 調査担当者 中沢徳士

遺跡の位置と経過

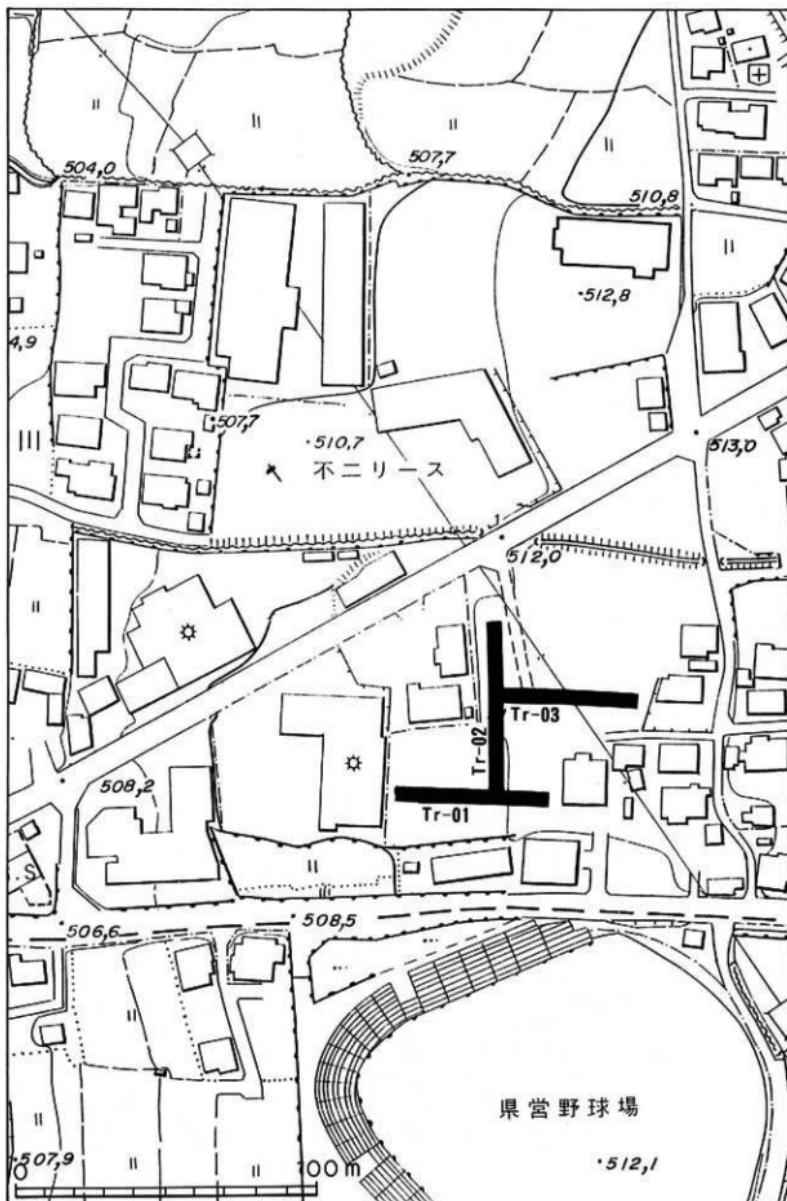
染屋台条里水田跡は、上田市の北東部、千曲川と神川によって形成された段丘状に位置する。遺跡分布図では、染屋台条里水田跡として段丘全体が括られているが、水田址については、現在のところ確認されていない。しかし、数回の試掘調査や発掘調査により、この段丘上にいくつかの小遺跡が存在することが確認されている。特に、今回の施工区の北側では、平成7年度に「大畠遺跡」が確認・調査されており、遺跡の存在も十分に予想された。

今回、㈱アドコマーシャルより、「上田ハウジングセンター」を建設する旨の開発事業申請があり、遺跡の有無確認のため、試掘調査を実施した。

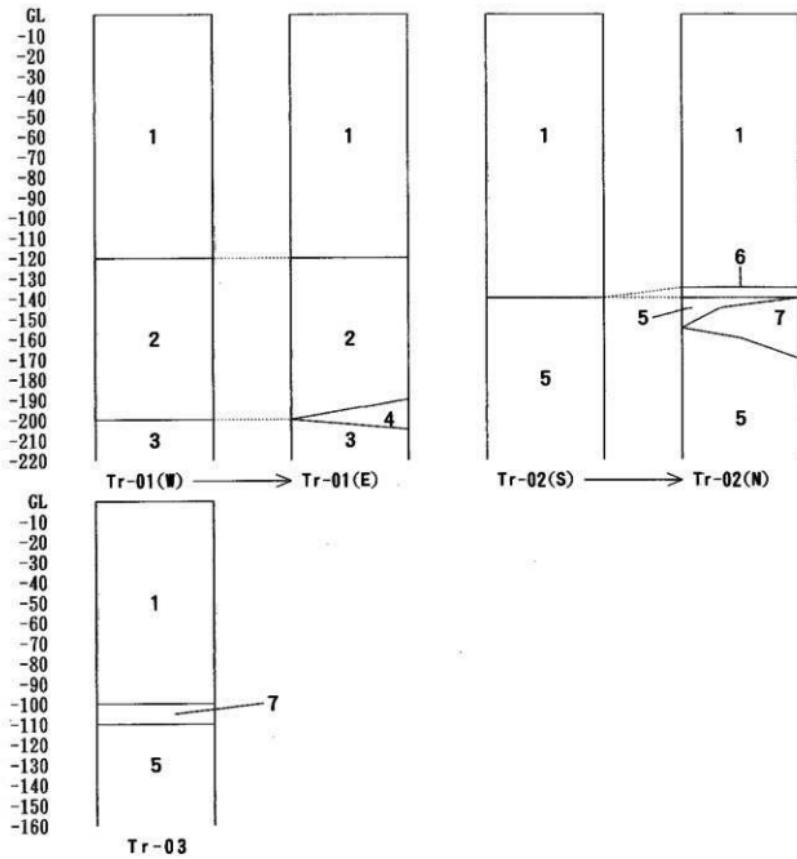
調査の結果

調査は、施工区に3本のトレンチを設定し、バックホーにより掘削、土層断面を精査した。その結果、調査地全体に0.5～1.5mの盛土がされており、その盛土を剥ぐと、水分を多量に含む暗緑灰色、もしくは緑灰色、黄橙色の強粘土があらわれた。また、盛土とこの強粘土の境には、植物の腐食土や、草・蔓系の根が存在し、かつてこの地が湿地帯であったことが判明した。遺構や遺物の出土はなく、遺跡の存在は確認されなかった。





第7図 染屋台条里水田跡試掘調査トレーンチ配置図



土層凡例	
1	盛土
2	10GY4/1 水分を多く含む暗緑灰色粘質土
3	7.5YR5/8 しまりの良い明褐色砂質土
4	10GY6/1 緑灰色強粘質土
5	10YR7/4 にぶい黄橙色強粘質土
6	黒褐色腐食土
7	5G6/1 緑灰色強粘質土

第8図 染屋台条里水田跡試掘調査標準土層図

(6) 内堀遺跡（居館跡）

- 1 調査地 上田市大字五加字内堀
- 2 原因 市営内堀住宅建設
- 3 調査日 平成8年6月6日～7日
- 4 調査方法 幅約1mのトレンチを4本入れる
- 5 調査担当者 中沢徳士

遺跡の位置と経過

内堀遺跡は、千曲川の南西、塩田平のはば中央に位置する。遺跡は、産川を東に望み、いくつかの微段丘を形成する地にある。『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会）によれば、「（前略）…およそ10,000畝にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器を出土する。この台地の周囲には堀がめぐらされ、地名の考証などからも、平安後期ごろの居館址の所在が推定される…（後略）」と述べている。今回、市営内堀住宅の第2期工事に伴い、施工範囲に係る遺跡の範囲確認と状況把握のため、試掘調査を実施した。

調査の結果

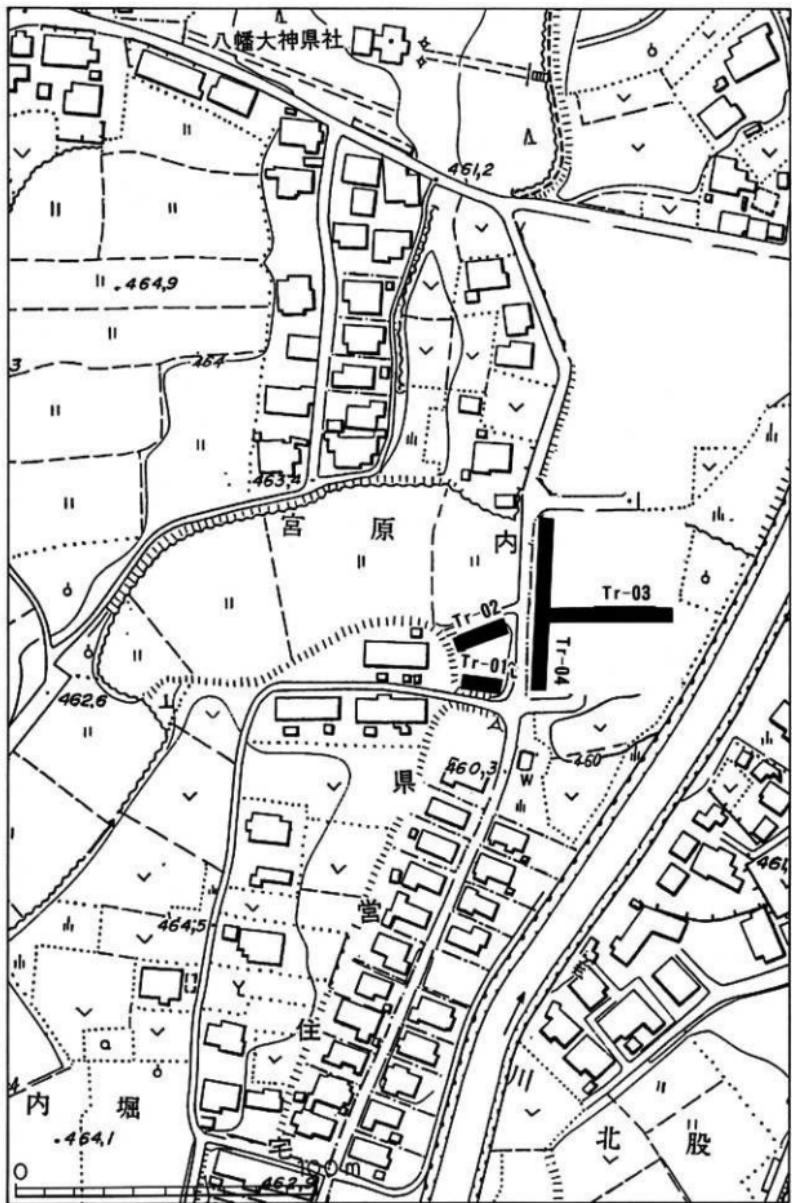
調査地は、居館推定地を取り巻く堀跡の北側が、産川に向かって落ちる箇所で行った。場合によれば、堀跡の一部が検出されることも想定して行った。

調査の結果、どのトレンチでも表土の下からはすぐに砂礫層が分厚く堆積し、往時はこの地が、産川の氾濫原であったことを示していた。ただ、Tr-01では、居館址面と氾濫源とを境する変換の土層が現れ、場合によれば、堀の水を吐く水路の存在も考えられた。しかし、Tr-02、Tr-04ではこれに連続する土層の変化はみられず、その範囲は把握し得なかった。また、この箇所は、現状保存が可能な箇所であったため、これ以上の調査は行わなかった。

今後、第3期、第4期
工事に際しても、調査は
行っていく必要がある。



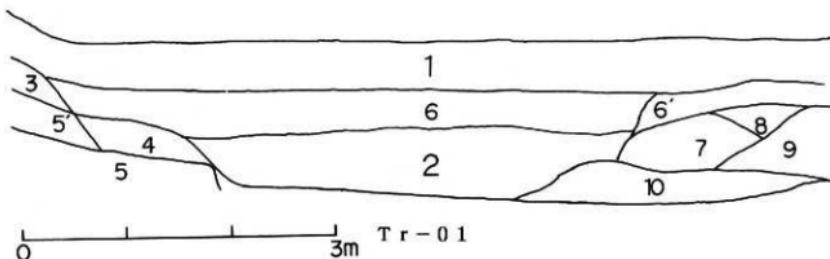
Tr-01 土層



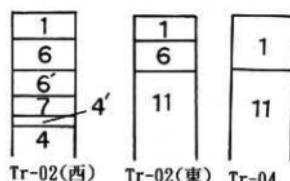
第9図 内堀居館址試掘調査トレンチ配置図



調査地全景（西から）



土層凡例	
1	…10YR6/6 明黄褐色砂質土
2	…2.5Y3/2 黒褐色砂質泥
3	…2.5Y5/6 黄褐色砂礫土（1と5の混合）
4	…2.5Y5/4 黄褐色砂礫
4'	…4層より褐色土がぬけ、粘性が強まる
5	…7.5YR6/8 橙色砂質土（しまり良い）
6	…5YR4/4 にぶい赤褐色砂礫土（やや粘性あり）
6'	…6～7の漸移層
7	…7.5YR5/4にぶい褐色砂礫土（しまり良い）
8	…7.5YR5/2灰褐色砂礫土（7と9の中間的な土）
9	…10YR4/6 褐色砂礫土
10	…10YY2/1 黒色土（非常に堅緻な層）
11	…礫層（氾濫原）



第10図 内堀居館址土層図

（7）八幡裏遺跡

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 調査地 | 上田市緑ヶ丘一丁目 |
| 2 原因 | 国立新病院付属保育園及び駐車場建設 |
| 3 調査日 | 平成8年7月20日、31日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを6本入れる |
| 5 調査担当者 | 中沢徳士 |

遺跡の位置と経過

八幡裏遺跡は、市街地の北部、新田地区に位置する。この地は、太郎山の南斜面、和合沢の小扇状地の末端の、比較的緩やか斜面である。正確には、「八幡裏遺跡群」ともいるべきもので、『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会）では、思川遺跡、大星前遺跡、海禅寺裏遺跡、新田遺跡、道祖神遺跡、八幡東遺跡、八幡裏遺跡の6遺跡として把握している。今回、調査対象となったのはこのうち、思川遺跡の範囲で、同報告書によれば、「国立東信病院敷地内を中心に分布する遺跡で、昭和27年の改築工事の際に、縄文中期の加曾利E式・後期の掘之内式・加曾利B式などの土器片とともに、磨製石斧1、打製石斧6、ニホンジカ・イノシシなどの獣骨を出土した…（後略）」とある。さらにこの隣接地で、1994年、国立新病院の建設に伴う発掘調査が実施され、縄文時代後期の敷石住居址や古墳へ平安時代の住居址が数多く検出されている。

今回、平成8年度中に国立新病院の付属保育園及び駐車場が建設されることになったため、施工範囲に係る遺跡の範囲確認と状況把握のため、試掘調査を実施した。

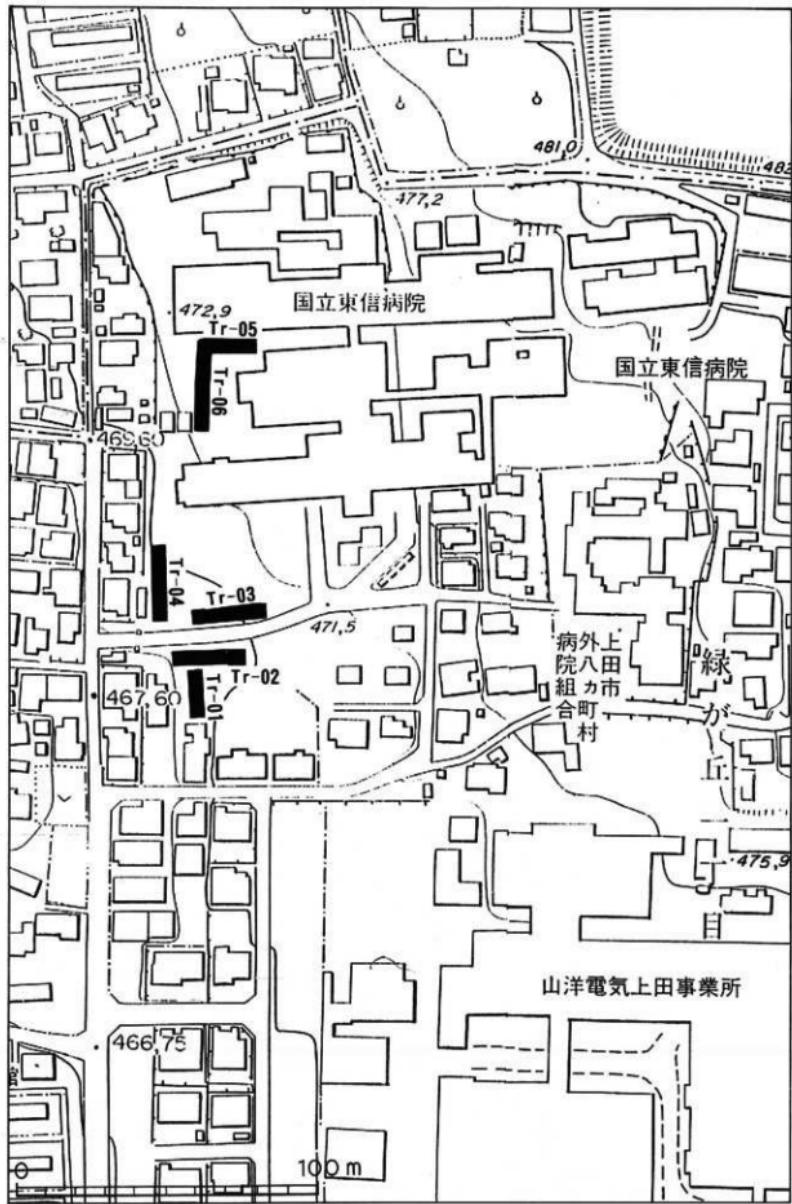
調査の結果

調査は、施工範囲を対象にトレンチを6本入れて行った。調査地は、病院の駐車場として利用されており、また、地中にライフラインが網の目のように通っていたため、限られた範囲の調査となつた。

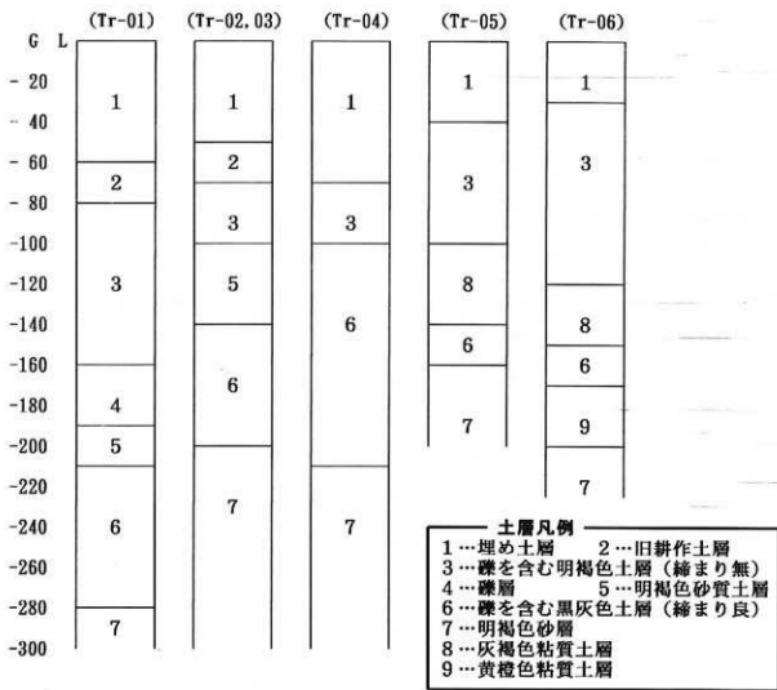
調査の結果、地下3mまで深掘りをしてみたが、遺構・遺物の検出はなく、前述の94年の調査の際に確認された溝址がのびていることもなかった。

のことから、この遺跡の北西の限界が、94年調査の範囲であることが確認できた。





第11図 八幡裏遺跡試掘調査トレンチ配置図



第12図 八幡裏遺跡試掘調査標準土層図



(8) 八幡裏遺跡

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 調査地 | 上田市緑ヶ丘一丁目 |
| 2 原因 | 都市計画道路国立新病院南口道路建設 |
| 3 調査日 | 平成8年10月26日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを5本入れる |
| 5 調査担当者 | 中沢徳士 |

遺跡の位置と経過

八幡裏遺跡は、市街地の北部、新田地区に位置する。この地は、太郎山の南斜面、和合沢の小扇状地の末端の、比較的緩やか斜面に位置する。正確には、「八幡裏遺跡群」ともいべきもので、『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会）では、思川遺跡、大星前遺跡、海禅寺裏遺跡、新田遺跡、道祖神遺跡、八幡東遺跡、八幡裏遺跡の6遺跡として把握している。今回、調査対象となったのはこのうち、道祖神遺跡の範囲で、同報告書によれば、「山洋電気上田工場の敷地内にあり、造成工事の際にほとんど破壊され、分布範囲は明らかでない…（後略）」とある。一方、この八幡裏遺跡では、長野県職員住宅や国立新病院、同看護婦宿舎の建設に伴う発掘調査が1994年以来、3次にわたって実施され、古墳時代の住居址や縄文時代後期の敷石住居址が数多く検出されている。

今回、平成8年度中に国立新病院の南口道路が建設されることとなつたため、施工範囲に係る遺跡の範囲確認と状況把握のため、試掘調査を実施した。

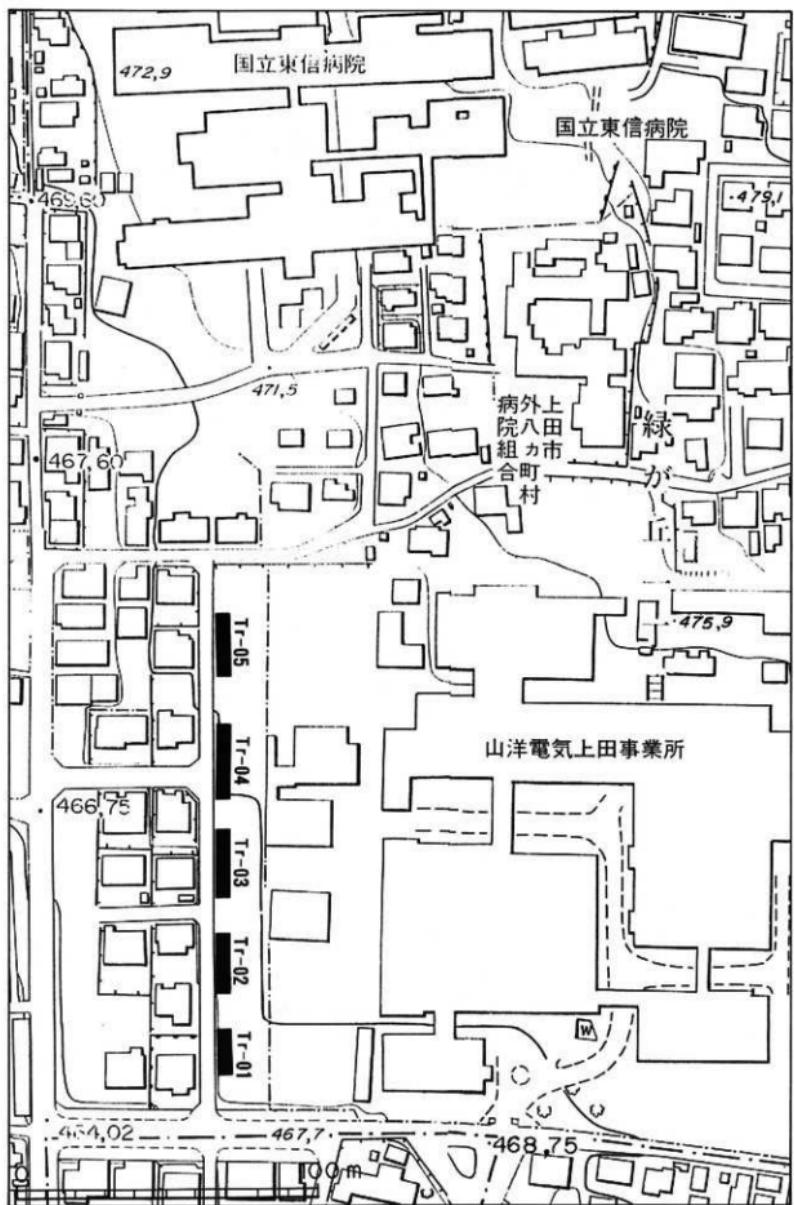
調査の結果

調査は、施工範囲の1,800m²(L150m×W12m)を対象にトレンチを5本入れて行った。調査地は、新病院の工事用道路や駐車場、市道として利用されていたため、限られた範囲の調査となつた。

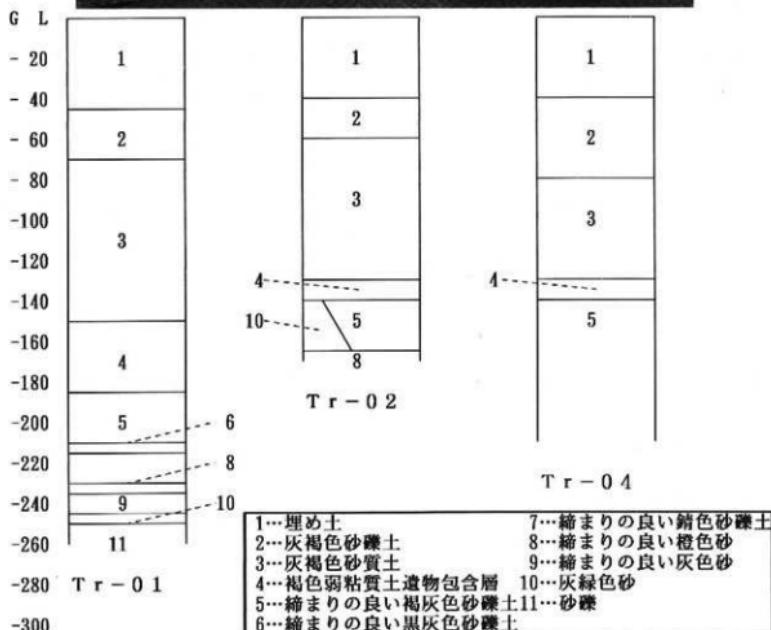
調査の結果、L=93m、W=12mの約1,200m²にわたって、古墳時代の住居址や縄文～古墳時代の土器の出土をみた。遺構検出面の深さは、前述の3次の調査と同様、2m前後と、深い位置であった。

遺跡の範囲は、周辺地形から類推すると、この辺りを西南の限界として、山洋電気上田工場敷地内にひろがって遺存しているものと考えられる。





第13図 八幡裏遺跡試掘調査トレンチ配置図



第14図 八幡裏遺跡試掘調査標準土層図

(9) 築地遺跡

- | | |
|---------|------------------|
| 1 調査地 | 上田市大字築地字鶴籠田 |
| 2 原因 | 県営ほ場整備事業 |
| 3 調査日 | 平成9年2月20日～22日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを20本入れる |
| 5 調査担当者 | 中沢徳士 |

遺跡の位置と経過

築地遺跡は、上田市の西部、浦野川と産川によって形作られた通称川西平野の東に位置する。正確には、「築地遺跡群」ともいるべきもので、『上田市の原始・古代文化』（1977年上田市教育委員会）では、蔵之台遺跡、屋敷遺跡、西沖遺跡、鶴籠田遺跡の4遺跡として把握している。今回、調査対象となったのはこのうち、鶴籠田遺跡の範囲で、同報告書によれば、「築地集落の西南方にある桑畠・果樹園内、およそ4,000m²にわたって、縄文中期の加曾利E式土器を出土する。」とある。

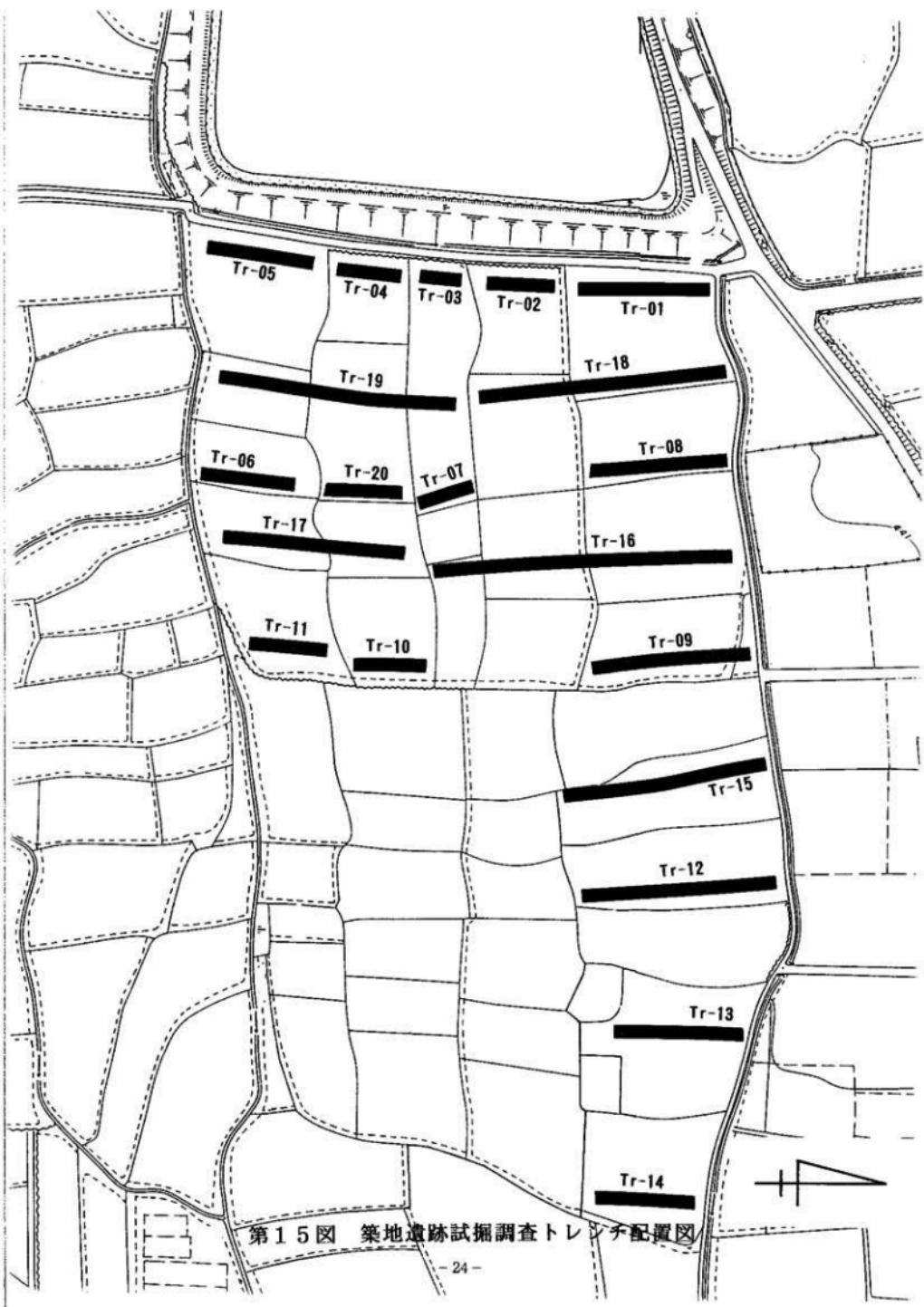
今回、平成9年度に当地区で県営ほ場整備事業が計画されたため、遺跡の範囲確認と状況把握のため、試掘調査を実施した。

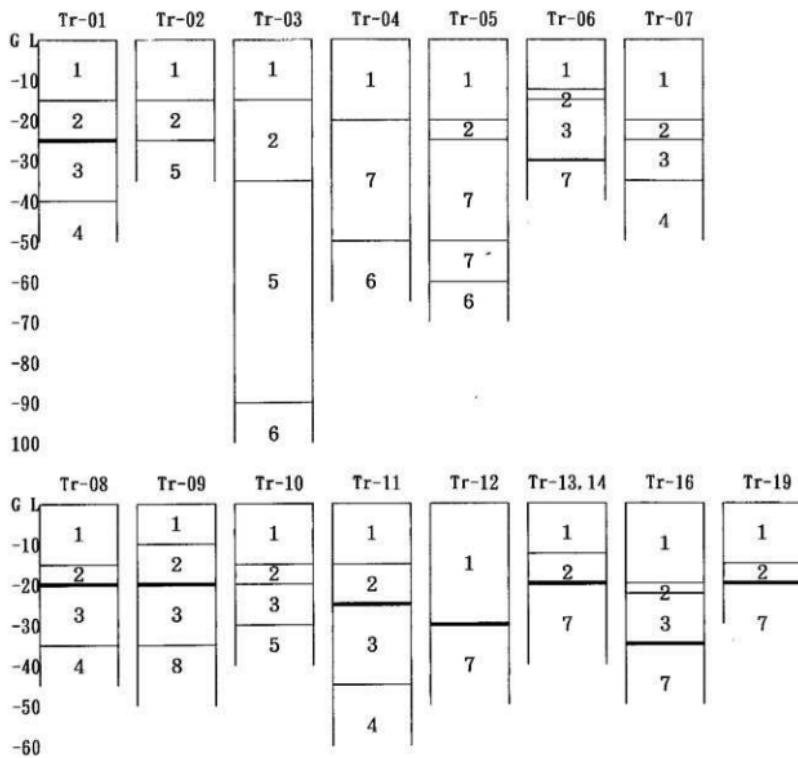
調査の結果

調査は、施工地区の築地池東1.7haを対象にトレンチを20本入れて行った。その結果、施工予定区北側からは弥生～平安の土器片と住居址・溝址・ピットが検出し、築地遺跡（鶴籠田遺跡）は、想定よりも南に大きく広がっていることが判明した。検出面は、GL-20～30cmと浅く、耕作土を剥ぐと直下に現れる。一方、南側では、遺構検出面がGL-20～30cmと浅く、平安時代の土器片を出土し、別の遺跡の存在が想定された。土層及び地形から見ると、施工区外南側に流路があり、分流が施工区を横切り、それを境として築地遺跡の南にもうひとつ小さな遺跡が存在するものと考えられた。

この結果、調査地の南半部約1,500m²と、北側の築地遺跡の8,500m²の、合わせて10,000m²に及ぶ遺跡が存在することが確認できた。しかし、南側の遺跡については、築地遺跡と全く性格を異にするものか、一体のものかまでは判明できなかった。







土層凡例

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 … 耕作土層 | 6 … 黄橙色砂礫層 |
| 2 … 溶脱層 | 7 … 黄橙色砂質土層 |
| 3 … 褐灰色粘質土層 | 8 … 褐灰色砂質土層 |
| 4 … 明黃褐色強粘質土層 | —— 遺構検出面 |
| 5 … 灰色砂礫層 | |

第16図 築地遺跡試掘調査標準土層図

（10）上沖遺跡

- 1 調査地 上田市大字国分字上沖
- 2 原因 平成9年度国分産業団地造成工事
- 3 調査日 平成9年2月24日～27日
- 4 調査方法 幅約1mのトレンチを29本入れる。
- 5 調査担当者 中沢徳士

遺跡の位置と経過

上沖遺跡は、上田市街地の東方、通称染屋台地の南端に位置する。『上田市文化財分布図』(1996年上田市教育委員会)によれば、染屋台条里水田跡遺跡の範囲である。染屋台条里水田跡については、この間、数回にわたり調査を実施しているが、埋没条里の存在は確認できていない。しかし、隣接する上田第一中学校予定地では、本年度当初に「古城遺跡」の発掘調査を実施しており、段丘端の、遺跡の立地には比較的条件が良いロケーションである。

今回、この上沖地籍内の3.8haで、上田市が長野県土地開発公社に委託して、上田駅前再開発に伴う代替地として国分産業団地を造成することとなり、今回の調査の運びとなった。

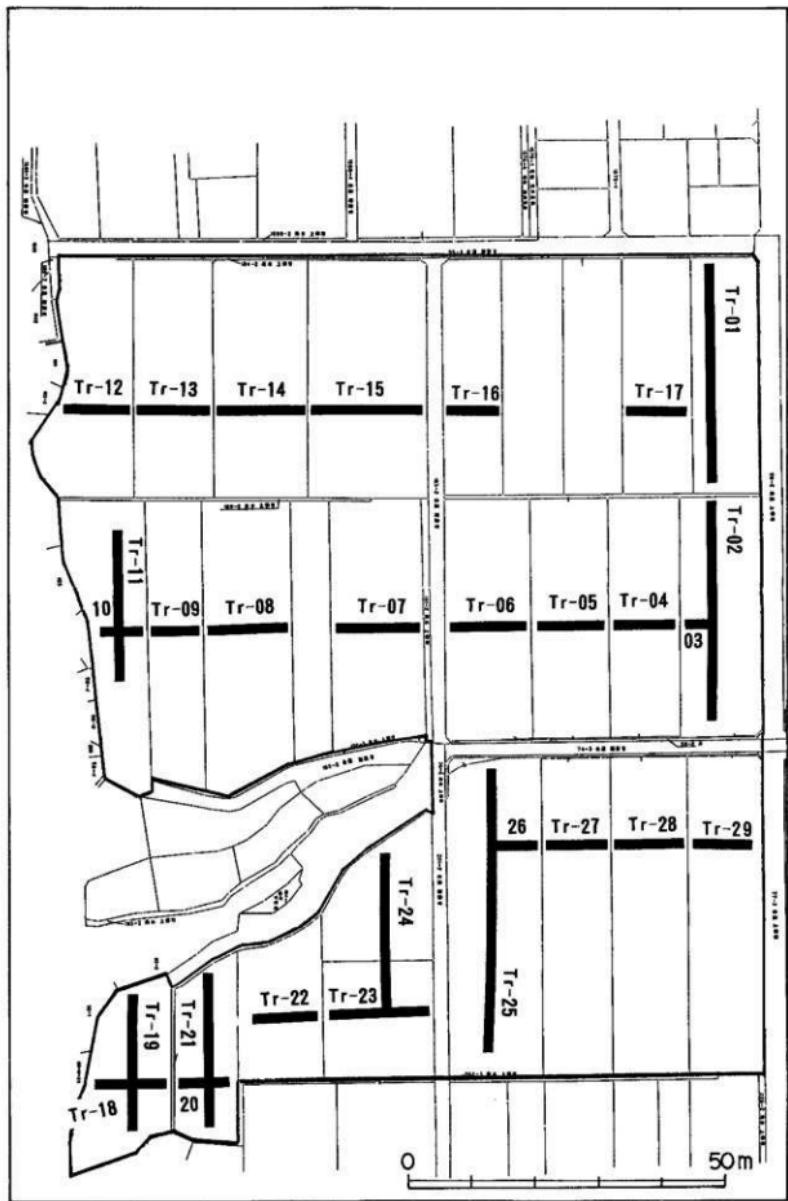
調査の結果

調査は、施工範囲内に29本のトレンチを入れて行った。この地はかつて、ほ場整備が実施されており、土の擾乱が著しい箇所も見受けられた。全体としては、染屋台地特有の白っぽい粘土層が耕作土下から出ており、施工区の大半で遺跡の存在は確認できなかった。

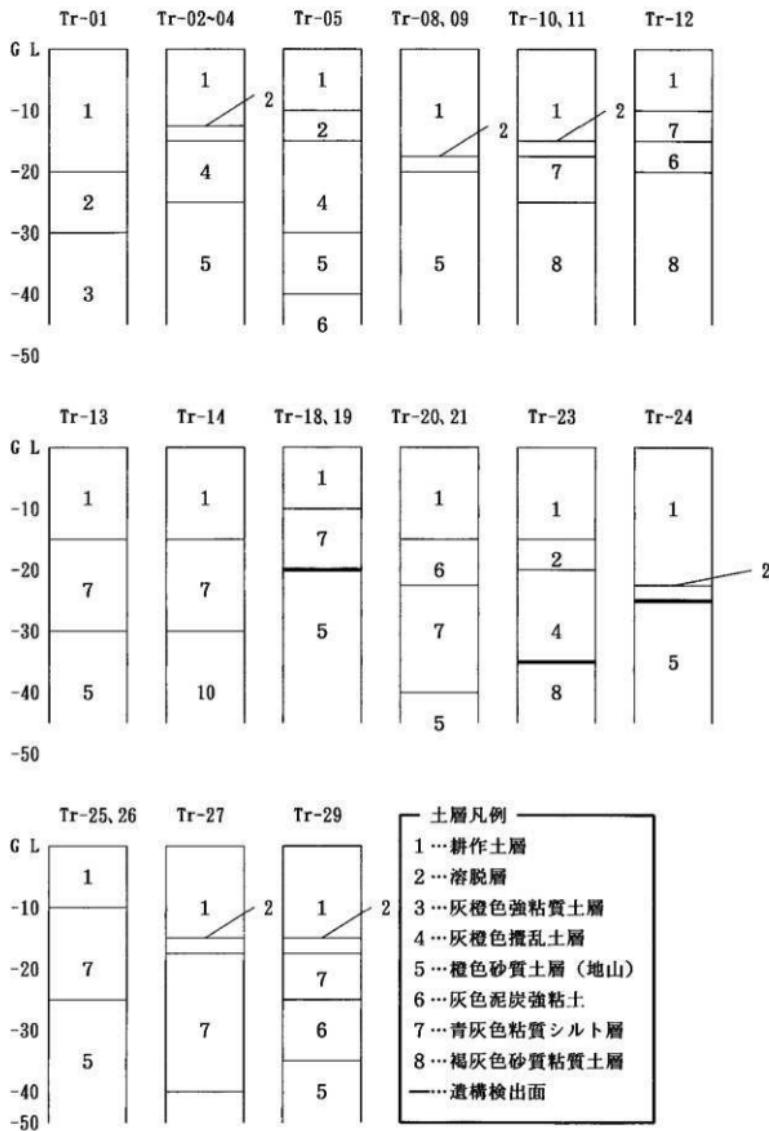
しかし、Tr-18～24(国分195番地～198番地)の、台地の張り出し状の箇所約6,500m²にわたって、遺跡の存在が確認された。Tr-18では、墓壙から人骨を出土した他、土壤・ピットが検出された。また、Tr-23からは溝状遺構が、Tr-24からは隅丸方形の住居址及び土壤のプランが確認された。

この結果、条里水田跡ではなく、新たに集落址・墓壙の遺跡の存在が確認されたため、遺跡名を字名から新たにとり、「上沖遺跡」とし、現在、その保護措置について調整している。(なお、字名は、旧来は「大沢」であったが、ほ場整備により、「上沖」となっている。)





第17図 上沖遺跡試掘調査トレーンチ配置図



第18図 上沖遺跡試掘調査標準土層図

上田市文化財調査報告書第65号

市内遺跡 VI

平成8年度市内遺跡発掘調査報告書

発 行 平成9年3月25日

上田市教育委員会

印 刷 中沢印刷株式会社
